

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

病害虫防除情報第7号

イチゴのハダニ類の発生状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

- 1 作物名 イチゴ
- 2 病害虫名 ハダニ類
- 3 発生状況

- 1) イチゴのハダニ類については、栽培初期から発生が多く、10月24日付けで注意報第8号、12月22日付けで同第10号を発表したところであるが、依然として高い発生量となっている。
- 2) 1月中旬現在の発生状況は、発生面積率が91.6%（平年40.0%）、寄生株率が32.3%（平年8.7%）で、どちらも平年より多となっている。
- 3) 発生量の推移は下記（図1，2）のとおりで、発生面積率、寄生株率とも今作の中で最も高くなっており、過去10年間の中で最も高い数値となっている。
- 4) 向う1ヶ月の長期予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖に最適な条件が続くと考えられ、更なる拡大が懸念される。

（鹿児島地方気象台 1月19日発表）

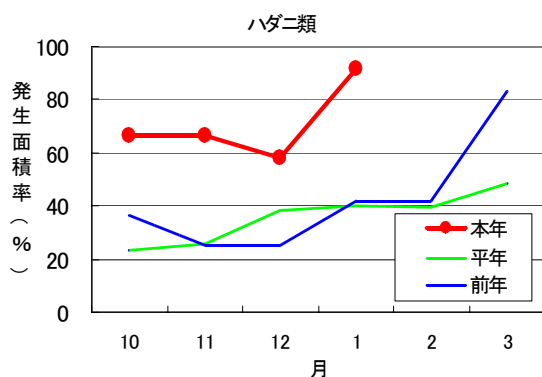


図1 ハダニ類の発生面積率の推移

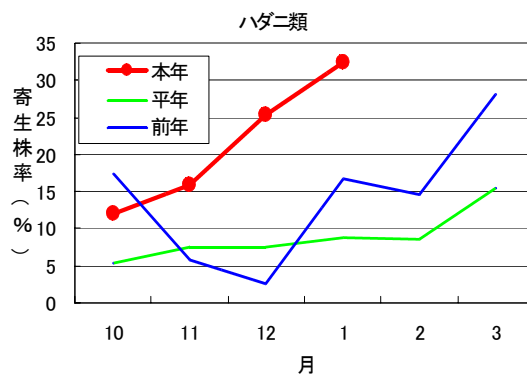


図2 ハダニ類の寄生株率の推移

4 防除上の注意

- 1) 多発生後の防除は困難となるので、早期発見、早期防除に努める。
- 2) 葉裏に寄生しているので、かけむらのないように丁寧に薬剤散布する。摘葉後に行うと薬剤の到達度が上がり効果的である。また、部分的に多発することが多いので、管理作業時に注意して観察し、スポット散布を行うのもよい。
- 3) ハダニ類が寄生した葉はほ場内に放置せず、ビニル袋などに密封して処理を行う。
- 4) 多発ほ場では、卵～成虫が混在し、1回の防除では効果が不十分なため、7～10日間隔で2～3回連続散布する。
- 5) 同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 6) 効果のある薬剤等防除その他の詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》

病虫害防除・肥料検査センター 米良

TEL. : 0985-73-6670 FAX. : 0985-73-7499

ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp